

市民向けアドバンス・ケア・プランニング 普及啓発プログラム

大河内 章三 ●認知症に優しいまちづくり実行委員会 代表



要旨

少子高齢化や超高齢社会を迎えた日本にとって、地域共生社会を理念に、障害の有無を超えて助け合い支え合う社会の構築は急務であり必須項目であると言える。

社会保障費の増加から、医療崩壊の危機を防ぐために見直された医療制度から派生した介護保険も年々費用の増加をたどっており、救急医療をはじめ、超急性期からなる病院医療の負担も増加しつつある中で、もしもの対応としてDNARやADでの対応では、医療現場や市民側の理解を得られることが少なくなってきたり負担は増すばかりである。

現在、国をはじめ各自治体の医師会等が主導となってACP普及啓発活動を推進しているが、従来の体系や概念を伝えるのみに留まる研修や講演会では、市民側への理解を促すには十分ではないと考え、市民向けに特化したACP普及啓発プログラムを実施しつつ、その手法を共有しながら各種医療介護専門職で検討を行う活動を行った。

1. 背景と目的

近年の高齢多死社会の進行に伴う在宅や施設における療養や看取りの需要の増大を背景に、地域包括ケアシステムの構築が進められていることを踏まえ、国はACP(アドバンス・ケア・プランニング：人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス)の概念を盛り込んだ「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」を平成30年に改定し公開した。ACPは、意思決定におけるプロセスの支援を行うために実施されるものであり、そのためにはそれに関わる多職種における専門職の理解と一般市民への啓発が欠かせない。

そこで私たちは、従来の一方的な講演や講義形式ではなく、「もしバナカード(TM)」を活用し、体験とその中から生まれた感情の揺れ動きをキャッチしながら、ACPを疑似体験的に伝えていくことで、ACPへの理解普及を図っていく活動を行った。

2. 活動の方法

1) 普及啓発従事者向けプログラム

専門職から市民向けまでの幅広い層へ向けたACPの理解とともに、普及啓発をするにあたっての基礎的理解と実際の取り組みを行っていただく方向けのプログラムである。

①医療・介護従事者を中心として、国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部・西川満則先生によるACPファシリテーター養成講座を受講、もしくは名古屋市医師会主催のACP研修会(概論編)のどちらか(両方でも可)を受講していただく。

②①を受講された方に、元名古屋大学教授・堀

容子氏より講義を受けた後、一般社団法人 Institute of Advance Care Planningが認定した「もしバナマイスター」により、「もしバナゲーム」研修会を開催。ACPの導入やもしバナゲームとACPの違いを理解し、体系的に伝える技術を磨くとともに、意思決定についての法的解釈の理解を深めていただく。

- ③上記研修を受講後に、地域の高齢者サロンやコミュニティへ出向き、もしバナゲームをきっかけとしたACPの理解・普及啓発活動を各自月1回以上のペースで実施していただくよう各参加者への後方支援（もしバナゲーム開催の手順を共有するなど）を行っている。
- ④今回参加された方を中心に、一般向けにも開放した形で、活動成果報告を実施し、64名もの参加者と市民向け活動について共有を図ることができた。

2) 市民向けACP普及啓発活動

- ①もしバナゲームやACP概論を織り交ぜた形で、一般市民のACPへの理解促進活動（各種地域サロンを巡回）を実施。
- ②専門職に向けた市民向けACP普及啓発プログラムの体験を開催。

3. 現状の成果・考察

1) 普及啓発従事者向けプログラム

計4回の全受講者：23名（各回受講者：116名）
愛知県が、あいちACPプロジェクトを推進しており、名古屋市も名古屋市医師会が、ACP研修会を概論編として取組みが始まった年度でもあることから、ACPへの理解や重要性についての認知度が高くはなかったものの、県や市の取組みが進むにつれ、今回実施した取組みに関心や興味を持たれる方が増していき、成果発表会には70名もの医療・介護関係者のみならず、行政や一般市民など多くの方に足を運んでいただき、取組み成果を共有することができた。

今年度、愛知県下におけるACPの取組みが広がったことによる一般市民への普及啓発が、今後の取組みの鍵となるため、今回ご参加いた

だいた皆様と協力・連携を図りながら、市民向けACPの取組みを進めていくことができると考えられる。

この取り組みは、毎日新聞2020年1月28日地方（愛知）版にて取り上げられた。（下記ホームページに記事掲載）

2) 市民向けACP普及啓発

令和元年度に高齢者サロンを中心に、地域サロン（各場所30人程度の参加者）へ名古屋市内を中心に計6か所（延べ180人程度）の65歳以上の高齢者に向けたACP普及啓発活動のプログラムを体験いただいた。

どの参加者からも「とても楽しかった」「将来を考えるきっかけになった」「家に帰ったら早速話してみたい」とのご意見をいただいている。市民側がACPを理解することで、専門職が話を振った時の抵抗が少なく、言葉を知っていることへの安心感にもつながるため、今後も継続的な取り組みが求められる。今後は、高齢者サロンの担当者等と連携を図りながら、事業を進めていく必要性を感じている。

4. 今後の展望

市民啓発プログラムの内容は、ACPを学んでいない、もしくはなかなか理解が難しいと言われる方への普及啓発にもつながるようで、同プログラムを、特別養護老人ホーム2か所（愛知県、三重県）、東郷町&豊明市の医療介護専門職（80名超）、岡山県の認知症専門員向け（15人）に実施、ACPの理解促進に向けたプログラムとしても好評をいただいている。今後も市民向け及び専門職向けとして、様々な手法を皆様と共に考えながら進んでいきたいと思う。

